

## 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県関市立関商工高等学校

学校番号

63

## I 自己評価

|     |   |  |   |           |
|-----|---|--|---|-----------|
| 1   | 学校教育目標  | 「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。<br>1 充実した教科指導の徹底により、地域産業界から必要とされる人材の育成<br>2 基本的な生活態度の育成により、地域から愛される人材の育成<br>3 活発な部活動の推進により、地域から期待される活力ある人材の育成  |   |           |
| 2   | 評価する領域・分野   | 学校経営   |   |           |
| 3   | 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等  | 保護者対象のアンケートでは「学校の教育方針や指導内容」「創造的・人間性豊かな生徒の育成」「健全な心身の育成」の項目において、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせると92～95%の高い評価をいただいている。また、95%の生徒が「教育方針をわかりやすく説明されている」と回答し、96%が本校に入学できてよかったと感じている。 |   |           |
| 4   | 今年度の具体的かつ明確な重点目標  | (1) 組織と連携を大切にした教師集団及び働き方改革の推進<br>(2) コロナ禍での感染症防止に対応した教育活動の充実（危機管理を意識した安全教育）<br>(3) 商業、工業教育の推進（新教育課程を見据えた対応）<br>(4) 教科指導と部活動指導の両立<br>(5) スクールポリシーの策定                  |   |           |
| 5   | 重点目標を達成するための校内組織体制  | ・企画委員会 ・職員会議 ・各種委員会 ・商工専門部会 ・学校運営協議会   |   |           |
| 6   | 目標達成のための具体的な取組  | 7  | 達成度の判断・判定基準あるいは指標                         |           |
| (1) | 組織対応の徹底と会議時間の短縮   | (1)  | 先生方による評価及び勤務時間の短縮                         |           |
| (2) | I C Tを活用した授業実践  | (2)  | 生徒の授業評価、生徒を対象とするアンケート                     |           |
| (3) | 専門科における地域との協働学習に向けての取組  | (3)  | H P及び新聞記事及び課題研究発表会による                     |           |
| (4) | 部活動、生徒指導等による人間形成  | (4)  | 生徒及び保護者等を対象とするアンケート                       |           |
| (5) | 本校の現状分析及び教育目標に準じた活動   | (5)  | 職員会議及び学校運営協議会による                          |           |
| 8   | 取組状況・実践内容等  | 9  | 評価視点                                      | 10 評価     |
| (1) | 情報共有を密に行い、組織としてスムーズに対応する。また、働き方改革の一つとして、会議時間の短縮につとめる。   | (1)  | 組織での対応ができていたか。会議時間の短縮がなされたか。適正な勤務時間であったか。 | A (B) C D |
| (2) | オンライン学習支援やClassroomを活用し、生徒、教員ともに組織として、コロナ禍での感染防止対策に当たる。   | (2)  | 生徒への学習支援が適切に実施されたか。組織で感染防止対策に取り組めたか。      | A (B) C D |
| (3) | 地域活性化に向けた教育活動を推奨する。   | (3)  | 商工の学習活動が地域貢献活動に結びついていたか。                  | A (B) C D |
| (4) | 挨拶などの対人マナーを励行するとともに、お互いを思いやる人間関係作りを実践する。  | (4)  | 基本的な生活習慣が身に付いているか。トラブルはないか。               | A (B) C D |
| 11  | 成果・課題   | 総合評価   |   |           |
|     | ○職員間で足並みを揃えて、生徒の検温指導等感染防止対策に当たることができた。<br>○休校期間中のみならず、Classroom活用による学習支援や情報発信・共有ができた。<br>○コロナウィルス感染予防のため、立案、計画、実施とも難しい状況であったが、部活動や地域での学習活動で一定の成果を残すことができた。<br>○基本的な生活習慣を身に付ける指導の徹底、部活動の活性化を図り、魅力ある学校づくりにつとめることができた。<br>●商業科と工業科の連携を深め、一体となった学校の特色作りが必要である。また、新教育課程を見据えた観点別評価の方法について、全体での研修及び意思統一が必要である。<br>●部活動のあり方と働き方改革について、検討が必要である。 | A (B) C D  |   |           |
| 12  | 来年度に向けての改善方策案   |  |   |           |
|     | ・本年度策定したスクールポリシーを基本とし、教職員が一体となって教育目標の実現に努める。<br>・広報活動として、SNSを利用して迅速に情報発信を行える仕組みを構築する。<br>・業務の精選と効率化、部活動のあり方を検討し、教職員の働き方改革を推進して、教育活動の活性化を図る。   |  |   |           |

## II 学校関係者評価

実施年月 令和4年1月25日

## 【意見・要望・評価等】

コロナ禍において、感染防止に十分対応した学習指導や行事が実施されている。先生方のご努力により教育方針等が生徒や保護者に理解され、地域にとって必要な学校として認知されていると感じる。学校の様子がわかるような開かれた学校を目指していただきたい。また、関市内の外部人材を活用し、地元関市への就職者を増やすための方策を考えていただきたい。